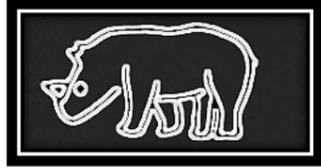


## 『犀の角』タイトル秘話



貪欲と嫌悪と迷妄とを捨て  
結び目（煩惱）を破り  
命を失うのを恐れることなく  
犀の角のようにただ一人歩め。  
『ブッダのことは スッタニパータ』

お寺のお知らせ『犀の角』は、住職が僧侶の学校を卒業した後、本山の伝道研究所で学んだことで、お寺の広報誌を作りたいと考えたことから始まります。

前住職は、毎年秋の報恩講にきれいな印刷のリーフレットを発行。また春彼岸にも温かい色合いのお知らせを発行していました。やがてパソコンが普及し、印刷会社にたよらずとも、印刷物が自在に作りやすくなっていました。若い世代で広報誌の作成は始めたものの、寺にコピー機を導入する前は、夜間の空いているコンビニに原稿をもちこみ、ひたすらコピーしていたこともありました。

タイトルの“犀の角”は、お経に由来しています。『スッタニパータ』というお釈迦様の言葉が短い句であらわされたお経があります。そのなかに、句の終わりがどれも「犀の角のようにただ一人歩め」で終わる一節があるのです。

インドでは、犀が身近な動物で、森や藪の影に、移動する犀の角を目にすることがあったのでしょうか。一本の角がゆっくりと移動していく様子は、どっしり独立し、地に足をつけたあり方の象徴なのかもしれません。天童の高掬で真宗の門徒として地に足のついた歩みをはじめたいとの思いからこのタイトルとなりました。

しかし、ここは日本なので、犀という動物はイメージしにくい、その影響もあるのでしょう。「お寺のお知らせ、“鹿の角”に書いてたことですが…」と問合わせいただくときがあります。「鹿の角ではなくて、犀の角です」とわざわざ訂正するかどうかわかりません。

また「鹿の爪…でしたっけ」となることもあります。確かにツノとツメって似ているなあ、それにどっちも切ったとき痛くないし、と妙に納得してしまったり。そしてさらには「さいのかわら版を見て…」とおっしゃる方もあり、「！」・・・それはもはや「賽の河原（さいのかわら）」ではないのか？三途（さんず）の川のイメージも浮かび、もしそうなら、寺の広報誌にしても、ちょっと挑戦的なタイトルに思えて、笑えます。

死後の世界としてイメージが様々ありますが、お釈迦様は死後の世界については黙して語られなかったそうです。

そして浄土真宗の教えも、死後の旅を仮定せず、お棺に六文銭を入れたり、旅装束を用意することがありません。亡くなった方は、あみだ様の国、浄土に行かれたと受け止めます。さまようことなく、あみだ様に迎えられるのです。一方、旅が続くのは、こちらの世界に住む私たちの方。別れを受け入れるまでの時間も必要で、またその後も自分の人生を生きていくという大きな仕事が続いていきます。その折々に、人生を確かめる仏事となっていればよいと思います。そうなるようにつとめるのが僧侶の仕事でもあります。

タイトルの話から随分展開してしまいましたが…『犀の角』！今後もよろしくお願ひします。



# さい つの 犀の角



願行寺広報 No.65

発行 山形県天童市高掬北 130 番地 願行寺  
電話 023-655-3218



大晦日の夕方の御堂

除夜の鐘はご自由におつきください。  
修正会は元旦朝 9 時より本堂にて。  
年の初めを一緒にお迎えしましょう！！

## 法語

死を忘れるとき  
生活は浮き  
死に怯えるとき  
生活は沈み  
死があきらむとき  
生活は輝く

本山報恩講 讃仰講演会（11月28日）  
ライブ配信にて 池田勇諦先生

## 本郷の求道会館（東京）を訪ねました



東大前の求道会館（1915年築）。  
明治の建築家、武田五一による設計です。近年、修復されました。

恩師の西田真因先生の米寿記念講演が開催され、求道会館を訪ねました。「心に阿弥陀さんがいない人は危ない」。心に残った言葉です。自分自身、縁によってはどんな心を持つかわからない。危なっかしい自分を生きていること、その自分を阿弥陀さんが見ているということが、心にブレーキをかけてくれる。あるいは、やらかしてしまっただけで、気づかせてくれる。同席の東京在住の方が、玄関でピンポンされて対応を断った相手が、数日後に闇バイトで捕まっていたと話していました。「間違いをおかさない人はいないけれど、立ち止まることを願われていますよ。もし立ち止まらなかった時でも、してしまったことを振り返って自分のありさまをよくよく阿弥陀様の光に照らしてもらって気づいていくことができるんですよ」と、呼びかけられているように思います。

秋の仏事の様子

報恩講を厳修 10/28



36年間おつとめになられた真宗大谷派の議員として、穏やかにお話しされました。



ひさびさのお齋柿やニンジンが色鮮やかに。

5年ぶりのお齋をみんなで一緒にいただきました。黙食を奨励された数年間だったためか、以前より静かな会食でした。でも雰囲気は和やかで、おいしかったよ！と後からたくさん声をかけていただきました。

推進員企画 御伝鈔 (ごでんしょう) の夕べ 11/25

聖人のご生涯をひ孫が書き残されたものをろうそくの灯りのもと拝読する行事にライブ配信でお参り



親鸞聖人の生涯をろうろうと読み上げるライブ配信

ご生涯を4幅の絵であらわしたものの(掛軸のコピー)です。

今読んでいるのは、このような文と絵が交互になった巻物です。

山形教会報恩講法話 12/1 (山形市木の実町)

坊守が紙芝居『ごんごろ鐘』(原作は『ごんぎつね』などを作った新美南吉)を上演し、ご法話をさせていただきました。



2025年(令和7年)年忌法要のお知らせ

- 一周忌 2024年(令和6年)
- 三回忌 2023年(令和5年)
- 七回忌 2019年(平成31年・令和元年)
- 十三回忌 2013年(平成25年)
- 十七回忌 2009年(平成21年)
- 二十五回忌 2001年(平成13年)
- 三十三回忌 1993年(平成5年)
- 五十回忌 1976年(昭和51年)

ご年忌をおむかえのご家庭には、ハガキサイズのお知らせをお送りします。

喪主 ○○様  
○回忌のお知らせ  
○月○日は釈○○様の  
○回忌にあたります  
予定 月 日 午前・午後

2025年の仏事ご案内

- 元旦 朝9時 修正会
- 3月11日(火) 午後2時 忘れなの鐘
- 3月20日(木) 春彼岸会
- 5月11日(日) 花まつり
- 8月6日・9日 原爆忌
- 8月13日・14日 御盆
- 9月7日(日) 午後2時世話人総会
- 9月14日(日) 願正忌 清池の骨堂法要
- 10月23日(木) おみがき土曜会



- 10月28日(火) 報恩講
- 11月28日(金) おすすはらい

月末の境内掃除 担当

- 4月 新町・院主田・願正壇
- 5月 長岡2
- 7月 長岡3・泉町
- 8月(盆前) 長岡4・長岡北
- 8月 芳賀
- 9月 樋ノ口
- 10月 南町
- 11月 清池骨堂



写真はいずれも今年の様子です。